

熊本で起業の若者を支援 崇城大でビジネスコンテスト開催



崇城大学（中山峰男学長）は、昨年12月15日に、「第5回崇城大学ビジネスプランコンテスト」を開催した。県内の起業を目指す若者を対象としたビジネスの

優勝・熊本県知事賞は「崇城大学パレット」で、女性のさらなる活躍を手助けするための画像認識AIを用いた美容系アプリケーションを開発する計画を発表した。写真。準優勝の「崇城大学Plameat」は世界の誰もが楽しめる「食」づくりを目指し、フェイクミートの開発・販売計画を発表した。



アイディアを競うもので、優勝チームには賞金支援が用意されている。第4回に引き続き、同大学、熊本県の共同主催で実施した。第5回目となる今回は、136チームから応募があり、1次予選で30チームが選抜され、さらに2次予選を勝ち抜いた8チームが、ファイナリストとして選ばれ、同日プレゼンテーションを行った。

この他、最終選考に出場したチームは、NICT賞（起業家甲子園挑戦権）や、NEDOスタートアップ支援賞（平成31年度の起業家研修への招待）などの各賞を受賞した。

（仮想現実）を駆使した最先端医療に挑む外科医の杉本真樹氏（Holoes株式会社Co-Founder. COO／同大学客員教授）による特別講演が行われた。

また、同コンテストの第1回目の優勝者で、すでにコロナ肺炎で起業している加曾利亮地氏（INJA株式会社／NINJA S.A.S代表取締役社長）から、事業の報告や、国民性の違いによる苦労や工夫しているポイントなどを発表した。